



Title	ディスカッサントⅡ
Author(s)	金子, 肇
Citation	OUFCブックレット. 2014, 5, p. 113-114
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/50109
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

1. 「政治史」と銘打たれた近現代史概説書の登場

＜国家＞を軽視してきたことのしっぺ返し？

- ・ 中国という＜国家＞の強化と自己主張 日本＜国家＞主義的回帰
- ・ 中国史研究は、かかる現状を歴史的に把握する方法を有していただろうか？

＜国家＞史を基軸とした＜政治＞史の方法的構築

両著の方法的視座 ＜国家＞への注目

- ・ 『20世紀』：対内的・対外的国家支配の正統性の変容
- ・ 『近現代』：国家統合と国家形成，国家としての統合と分裂

2. 近現代中国政治史・国家史と憲政

＜議会＞の政治史分析上の意義

- ・ 近現代中国と「立憲主義的な拘束」（民意の代表という観念による拘束）
* 野村浩一
- ・ 「民意」を表出し担保する存在 支配の正統性の根拠は＜議会＞に収斂する
- ・ 統治形態（国家意思の形成・決定・執行に関わる中央権力の制度的構成，とくに立法・執行両権の関係） ＜国家＞と＜国民＞の制度的結節点
- ・ 国家アイデンティティ形成、国民形成の制度的ステージ
支配の正統性から＜議会＞・＜憲政＞に注目する『20世紀』

<議会>・<憲政>への視点が希薄な『近現代』

議会史を基軸に据えた憲政史、憲政史を中核とした政治史・国家史の可能性

- ・議会権力の強化を「民主」の制度的強化と同一視する近現代中国の立憲的志向
- ・西欧的議会制から議会権力の擬制化へ（国民大会 人民代表大会）

3．政治史研究の方法をめぐって

日本史における政治史研究の対象

- ・社会・経済の過程・構造から相対的に独立した「政治的世界」（制度及び制度運用を背景とした権力・勢力、人的関係、政治家の政治理念や思惑、それらの交錯・抗争・提携・妥協の結果として、政治的合意が形成され国家意思が確定していく政治の過程と構造） 日記・書翰・編纂文書等の駆使

* 概説書の手頃なものとして坂野潤治『日本近代史』

中国史における方法・枠組み

- ・国家意思決定に「地方」が参与・介入する中国の政治的伝統＋民国期の政治割拠
 - ・統治体制の「政治構造史」的分析（『近現代』第1章：川井）
 - ・「社会構造史」的政治史／「社会政治史」（金子）：中央 and/or 地方の政治的展開を社会・地域の構造・動態・反応との相関関係のなかで分析
- 日本史の近現代政治史研究に学ぶ必要性

【参考】

金子肇「中華民国の国家統合と政治的合意形成」(『現代中国研究』3、1989年)

金子肇「近代中国における民主の制度化と憲政」(『現代中国研究』31、2012年)

金子肇「近現代中国政治史研究の方法と新聞史料をめぐる雑感」(『広島東洋史学報』17、2012年)